

北海道岩見沢農業高等学校における 木育に関する取り組みについて

北海道岩見沢農業高等学校 森林科学科3年 杉本 雅弥 西道 歩夢

研究の背景・目的

【背景】

北海道が調査した令和元年度林業労働調査によると、年齢別林業労働者数では平均年齢50.6歳であり、10年間で1歳若くなったものの、60歳以上の割合は依然として高く、50歳以上が半数を占めています。また、道内における林種別・樹種別の森林蓄積量では、広葉樹が48%、針葉樹が52%となり、特に針葉樹のうち人工林は全体の31%となっています。現在、道内の人工林の多くは主伐のタイミングを迎え、森林・林業に対する転換期を迎えています。

研究の内容・成果

【研究の内容】

○空知に木育を根付かせるためのターゲットと手法

全員でフレームワークの「KJ法」を用い、幼少期から森林や木材に対し親しみを持ってもらうことが長期的な人材の循環に大切であると結論に達しました。

○2020年の活動内容

岩見沢市内にある日の出保育園のご協力のもと、出前授業形式で実施することにしました。当初は、年10回を予定していたものの、実施が困難なため全3回のメニューに縮小し、対象年児は年長クラス16名とし、体験プログラムの立案には保育所保育指針を参考に「やり遂げる喜びや自信を持つことができるように配慮すること」を活動の留意点に、使用する木材はトドマツ材を中心に実践することにしました。

【学びの観点】

- ・純粋に知識として吸収していく「学び」
- ・体を使って習得していく「遊び」
- ・気付きから存在を認める「親しみ」

○実施計画

表 令和2年度活動計画

年	月	実	践	計	画
R 2 . 4	月	年間活動計画の立案、教材準備			
R 2 . 5	月	木育活動①(市内保育園「学び」) 宿泊演習林実習(月形町演習林)			
R 2 . 6	月	活動内容の反省、教材準備			
R 2 . 7	月	木育学習②(小学生の見本林受入) 活動内容の反省、教材準備			
R 2 . 8	月	木育活動③(中学生一日体験入学) 木育活動④(市内保育園「遊び」)			
R 2 . 9	月	木育活動⑤(中学生一日体験入学)			
R 2 . 10	月	木育活動⑥(市内保育園「親しみ」)			
R 2 . 11	月	活動評価、まとめ			

【成果】

今年度は、木育活動の第一歩として市内保育園にご協力をいただき、保育所指針に沿った木育活動を実践することができました。
《来年度も感染症対策に一層気を配りながら、長期的な取り組みを目指すとともに、複数の機関との連携を図る》

今後の展開

- 広く森林・林業の大切さを伝え、木材の利用を促進したり林業に興味や関心を抱いてもらうためには、木育は有効な手段です。
- 私たちは空知に木育を波及させるとともに、森や木の存在が市民の皆さんの身近に感じてもらえるように活動していきます。

【目的】

道内の森林資源を適切に活用するために、林業従事者の育成とともに、トドマツ材の理解を波及させ、「地材地消」を進めていく必要があります。私たちは全年代を対象とした木育を通じた林業への理解を目指して新たな専攻班を立ち上げ、地域に波及させることを目的に、様々な活動を実践しました。

岩見沢市の概要：人口 79,352人（男 37,072人 女 42,280人）
世帯数 41,493世帯（令和2年12月31日現在、住基台帳より）

【木育活動の内容】

1回目 木工体験（観点：学び）

活動前、アイスブレイクに取り組み、園児との距離を縮めながら、小学校入学後も活用できるようにペン立てづくりを実践しました。体験を行うにあたり、初回であることから、園児の疑問に耳を傾けながら全員が形として完成できる取り組みを行いました。



写真1 1回目の様子

2回目 木製玩具の体験（観点：遊び）

トドマツ材の“軽さ”に着目し、園児の手に取りやすいサイズで匂い・音・色見・触覚などの五感を使って遊ぶ積み木を製作しました。これは、遊びのルールを決めずに参加園児が創意工夫することをねらいとしています。また、2回目の活動を行うにあたり、工作が苦手な子に手立てが無かったことを反省点として自分の思うまま自由に取り組むことのできる「おが粉アート」も実施しました。



写真2 積み木に使用した魔材



写真3 おが粉アート（完成）

3回目 森の中で秋を見つける（観点：親しみ）

森の魅力を全身で感じてもらうため、紅葉が美しいミズナラ林に入り、実際に一人ひとりが木に触れるとともに、その時に見つけた大小さまざまなどんぐりや葉っぱを持ち帰り、思い思いに画用紙に張り付け、自己表現の場を設けました。



写真4 貼り絵の様子